

- 1 派遣期日 平成28年10月21日（金）
- 2 研修先 学校名 福島県福島市立三河台小学校
所在地 〒960-8053 福島県福島市三河南町17-7
http://www.fukushima.gr.fks.ed.jp/?page_id=330

3 研修内容

自分らしく科学し続ける子どもを育てる
～科学単元「サイエンスユニット」構想に基づく実践～

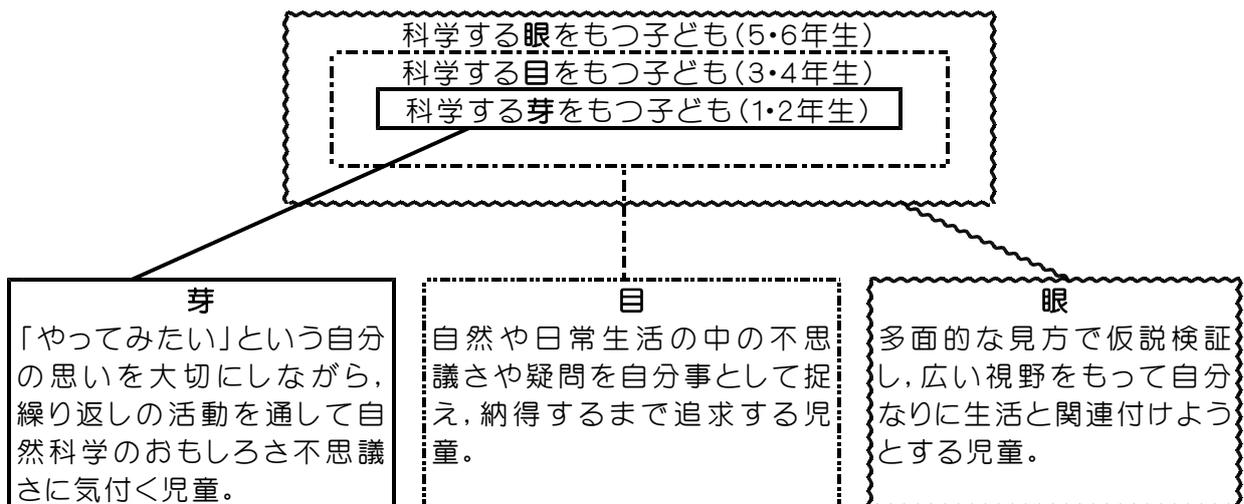
(1) はじめに

福島市立三河台小学校は、長年にわたって理科・生活科を中核とした授業研究を継続している。教育課題解決に向けた教育実践を公開しながら、昨年度は、「平成27年度ソニー子ども科学教育プログラム最優秀校」に選ばれた。本年度は、その研究発表を行った、数々の提案を重ねている学校である。

(2) 研究内容

①「自分らしく科学し続ける子ども」とは

子どもたちに「自分らしさ」を求める背景には、ガードナーの Multiple Intelligences (MI) 理論がある。子どもたち一人ひとりには多重知能を有しているであろうとする考え方である。彼らは個性や感性などの多様性の持ち主であり、可能性を秘めている。言語表現が得意な児童もいれば、音楽的な表現を好む児童もいる。自分らしい自然科学の感じ方があり、「なぜ？」の視点が子どもたちなりにユニークなのである。そのような子どもたちにどのような科学教育を施せばよいのかを探り、科学し続ける子どもを育てることがテーマである。三河台小学校では、小・中・高学年ごとに3つのスペクトラムに設定し直した。これは、昨年度までの「子どもたちに育てたい”好奇心・追求心・探求心”」を発達的に据え直し、小学校6年間のスパンで3つの科学するくめ>をもつ子どもに育てることを意図したものである。



②サイエンスユニットとは

科学が好きな子どもを育てるために、理科や生活科の授業を充実させるばかりではなく、理科・生活科の学習内容を十分に分析し、それに関連させながら総合的な科学教育を実践することで、本来の理科・生活科の理解が促進され、さらに探求的に問題解決学習を図る。

(3) 実践事例

<子どもの科学教育プロジェクト>

実践校では、表現力とコミュニケーション能力を育成するために、全学年で「わくわくショータイム」を昼休みに実践していた。これは、理科・生活科等で学習した内容を、他学年の友達や保護者、地域の方々に向かって伝える活動である。また、「おもしろパーク」では、主として休み時間を活用して、教師から子どもたちへ科学に特化したおもちゃや道具を掲示している。自分たちの手で作る作業を通して、ものづくりの楽しさを共に味わいながら、科学への興味・関心を高めようとする取組を休み時間に実践している。また、校舎全体に科学に興味を持たせようとする工夫があり、児童が様々な科学的視点をもって生活することができる。つまり、学校教育全体を「科学が好きな子ども」を育てるためのフィールドにしようとする試みがある。



※廊下に掲示された惑星の模型



※階段に掲示されている物理学者の名前

<科学ネットワーク実践から>

実践校では、長年にわたって蓄積してきた地域教材や人材、各種専門機関とのネットワークがあり、理科や生活科の授業をする際に、大きく役立っている。実践校は、文部科学省指定スーパーサイエンスハイスクール（SHH）である福島県立福島高校の高校生とコラボレーション事業を行っている。この事業によって、高校生に混じって小学生ならではのユニークなアイデアも見られ、まさに「自分らしく科学する子ども」の姿を見ることができた。

(4) 感想

学校全体が科学に対する取組みに力を入れて、「科学が好き」な児童にしようとする熱意が校舎に入った時から感じた。理科・生活科の授業を通して「科学が好きな子ども」「自分らしく科学し続ける子ども」が児童一人一人から伝わる素晴らしい取組みであった。各学年の授業の様子と授業者の反省を踏まえて、サイエンスユニットのねらいと育てたい科学する「芽」・「目」・「眼」が着実に身に付いてるよう感じた。また、後半は全国の優秀発表校のプレゼンを見たり、全国の先生方と日々の生活科・理科に対する協議したりすることができ、日々の授業に活かすことができる内容となった。